

★今週の聖句

わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。

ルカによる福音書 9:23

★ねらい

イエスはご自分のことは考えず、「神からのメシア」としての使命に生きられました。問われて弟子たちもそう告白しましたが、イエスが自分の生き方としておられたのは、弟子たちが考える以上に徹底していました。既に神のみこころを知っていて、それに従い、十字架に至る厳しい道を歩む決心でした。この段落からしばらくは、イエスのこの生き方に向けて弟子たちを少しでも、自分中心でなく、神のため、イエスのため、現実には「隣り人」のために生きる者となるよう教えることだったのです。

★説教作成のヒント

人間は自分中心、自分の利益を考えて生きてしまいます。それは単にお金を儲けるなどということだけでなく、偉くなろうとか、学者になろうとか、有名になろうとかという思いにも現れてきます。イエスのように生きるとは、自分中心でなく、神中心に生き、この世では他者のことを考える者になるということです。それはなかなかできにくいことですから、イエスに従おうとするわたしたち人間にとってはまさに「十字架を背負う」ことになるのですが、そこにこそ、イエスに従うという本当の幸いがあるのです。

★豆知識

新共同訳が「神からのメシア」と訳している箇所は、原文のギリシア語本文から直訳すると、「神のキリスト」となります。神に選ばれて、神からの使命のために「油を注がれた者」、すなわち神の使命を委ねられた者という意味です。イエスの弟子となるということは、そういう方の弟子となるということで、不十分なわたしたちですが、少しずつそれに向かって歩んで行くのです。

★説教

イエスが弟子たちを教育なさったのは、教室の中ではありません。歩きながらだったり、野に休んでいる時でした。あるときイエスは祈った後で「人々はわたしのことをなんと言っているか」とお尋ねになりました。どんな噂をしているかということですから、弟子たちはみんな口々にいろいろ言うことができました。するとイエスは「では、あなたがたはどうなのだ」とお尋ねになったのです。それまでいろいろ話していた弟子たちはきっと、ハッとして一瞬黙ってしまったでしょう。そこで弟子を代表してペトロが「神から送られた方、わたしたちを救ってくださる方です」と答えたのでした。とても大事な告白をしたのです。そういう方に従って行くためには、その方の生き方を学んで、少しでもそれにふさわしい者にならなくてはなりません。イエスによる弟子たちの訓練の始まりです。その時イエスが弟子たちにおっしゃったことは、ご自分のこれから先十字架にまで至る生き方をお示しになった上で、いわば「ひとこと」でした。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」というおことばです。弟子たちの信仰の訓練が本格的に始まるのです。「日々、自分の十字架を背負って、わたしに従う」ということがどういうことなのか、人々に教え、人々を助けるイエスの生き方を見たり、聞いたり、イエスの教えを受けたりしながら、弟子たちは少しずつ心の中で学び始めていくのです。イエスの弟子であることの教育の始まりです。続いて毎週読み、学んでいくルカ福音書の教えは、少しずつこのことを、かつてイエスが弟子たちに教えてくださったように、わたしたちに教えてくれるでしょう。わたしたちもあの頃の弟子たちのようになって、少しずつ学んでいきましょう。

★分級への展開

○さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□30番 「まぶねのなかに」

□79番（改訂版） 「まぶねの中に」

○やってみよう

### ☆ぬくもりを感じよう

二人で背中合わせになって、5分間ほど、相手の背中からぬくもりを感じてみましょう。黙って目を閉じると、相手の気持ちを味わいやすくなります。

### ☆十字架をつくろう

〈用意するもの〉

割りばし・輪ゴム・紙粘土・ビーズ、おはじきなど（翌週、絵の具・ラッカーなど）

はしをふたつに割り、片方を適当な長さに切って輪ゴムでとめて十字架を作ります。これを芯にして紙粘土で肉づけしてビーズなどで飾ります。色塗り、ラッカー仕上げは翌週がよいでしょう。

○はなしてみよう

その①

・私たちは、自分の力だけを頼りにして、どんな危険や問題にも正面から立ち向かっているでしょうか。

それとも、自分の欠点を認めて、他の人に助けを求めているでしょうか。

・イエス様が「自分を捨てなさい」と言われたときの「自分」は、いったいどのような「自分」なのでしょう。

・二人で背中合わせになって、相手の背中から、どんな気持ちを感じましたか。

その②

・今日の聖書箇所では、ペトロが自分にとってのイエス様はどういう存在かということをお話しています。

あなたにとって、神様やイエス様はどういう存在ですか？

★今週の聖句

あなたは行って、神の国を言い広めなさい。

ルカによる福音書 9:60

★ねらい

イエスの覚悟は堅いのです。すべてを神に委ねて、ひたすらそのみこころに従う、という思いです。弟子たち、また弟子になろうとする者にも、その思いで従うように、とお求めになりました。イエスを受け入れず、そのことばを聞こうとしない者たちのことは神に委ねて、ひたすら自分たちは神の国のことを言い広めようとなさるのです。

★説教作成のヒント

イエスの教えに逆らい、反対し、さらには虐待する者がイエスご自身の時代にも大勢いました。いつの時代にもこのように、この世にはイエスの教えを聞こうとしないで、自分たちの思いや欲望に従って生きようとする人が多いのです。弟子である者はそれでもひたすら、イエスが身をもって教えようとなさる、神の国のことを広く伝えるのが使命なのです。

★豆知識

この週のための聖書には、イエスが訪れるのを歓迎しないサマリア人の村人たちのことが書かれています。次の週のための聖書には、イエスが弟子たちにお話になる、「よいサマリア人のたとえ」が出てきます。イエスが注目なさるのは結局、だれであっても、神のみこころに従う生き方をするかどうかということで、この場合のように一面的にサマリア人は駄目だ、などと決めつけることはありません。神の前、イエスの前で問われているのは、一人ひとりがどう生きるかということなのです。

★説教

イエスは神のみこころに従って、ご自分の旅の目的地をエルサレムと心に決めておられました。その途中に訪ねて教えようとなさった、サマリア人の村はこれに反対したのです。サマリア人はエルサレムを中心とする信仰のあり方に反対だったからです。すると二人の弟子がせっかちに「神の裁きを下していただきましょうか」と返答します。折角イエスが訪ねようとしておられるのにけしからんというわけでしょう。イエスはそれをお止めになって、別の村に行かれました。そこでは、どこへでもお供します、と言う人が出てきました。イエスは「自分には泊まる所もないのだよ」と覚悟をお求めになりました。また、別の人は「お供する前に、父の葬式をさせてください」と申し出ました。これも確かに大事なことです。別の一人は、従って行く前に「家族とのお別れをさせてください」とお願いしました。この願いも極普通のことのように思われます。でもイエスは「決心したら、もう後ろを振り返らずに、前へと進みなさい」とはっきりお求めになりました。神の国のことを伝えて、エルサレムで十字架に架かるといふ決心をしておられたイエスは、イエスに従って行こうとする弟子たち、弟子になろうとする人たちがしているのは、小さな決心ではなくて、とても大事な、大きな決心なのだ、とお諭しになりました。そのためにはっきりとお答えになったのです。「あなたは行って、神の国を言い広めなさい」と言われるのです。それは神の国について難しい話をしなさいということではありません。わたしたち一人ひとりに対して、神がどんなに大きな愛を注いでおられるかを伝えることです。その上で、一人ひとりがどのようにその愛にお応えしていくのか、ということです。一人ひとりはいささか小さい人間です。できることも小さいことではかありません。これを一生懸命にして、神の愛にお応えしていくのです。

★分級への展開

○さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□36番 「しゅイエスのみちを」

□120番（改訂版） 「主イエスの道を」

○やってみよう

**☆ほっとすることば**

目を閉じて、自分がひどく痛い思いをしているとき、「だいじょうぶ、痛くないよ」と言われたら、どんな気持ちになるかを、味わってみてください。また、どんな言葉をかけられたらうれしいか、探してみてください。

**☆お誘いリスト**

A. 前週に十字架を作った場合は、色塗りをしましょう。乾かす間、下記Bのリスト作りはいかがでしょう。

塗った絵の具がしっかり乾いたら、ラッカー仕上げをします。その際は必ず換気の良い場所で、大人が行ってください。

B. 神さまを信じて毎日を過ごすことがどんなにステキなことか、あなたの大切なひとにもお知らせできたらいいですね！

教会に誘いたい3人（ともだち、家族・・・）のリストを作り、持ち帰って見えるところに貼りましょう。そしてその大切な方たちが神さまと出会えますように、とお祈りしましょう。

○はなしてみよう

その①

・イエス様は私たちに、「わたしに従いなさい」と言われます。どうすれば、イエス様に従うことができるでしょうか。

・私たちが苦しいとき、神さまはどこにおられるのでしょうか。

・自分がひどく痛い思いをしているとき、どんな言葉をかけられたらうれしいか、話し合しましょう。

その②

学校の友達や近所の友達に、教会や神様のことを話したことはありますか？神様を歓迎するということはどういうことでしょうか？どうすれば、私たちは神様を歓迎する準備が出来るとおもいますか？

★今週の聖句

行って、あなたも同じようにしなさい。

ルカによる福音書 10:37

★ねらい

どう生きたらいいかということについて、神の教えを正しく知っているというだけではいけないのです。知っていて形だけそれを行うというのにも意味がありません。教えが信仰の生き方として極自然に生活の中に出てくることをイエスは問題にしておられます。

★説教作成のヒント

信仰の生き方として、「神を愛する」ことと、「隣人を愛する」ことを知識として知っているだけでは意味がありません。イエスはそれを「実行する」ことをお勧めになります。そこで問題になるのは「実行」のあり方です。「しなければならない」ということに縛られるのではなく、自然にそのように生きることができる生き方が大切なのです。

★豆知識

「隣人」は英語でneighbor、「近い」という意味のnearと同類の単語です。つまり「隣人」は自分に「近い人」という意味になります。イエスのこのたとえを読む第一のヒントです。第二のヒントは「となる」というイエスのことばです。「である」ことに慣れ、安住するのではなく、自ら進んで、たとえ遠くの間柄でも、「近い人」に「なろう」とすることが大事なのです。

★説教

イエスに質問したのは律法の専門家で、ユダヤ人の中でも神の律法についてよく知っているエリートです。それに対してイエスはたとえの中で、「サマリア人」を例として挙げて、お話しになりました。歴史的にユダヤ人とサマリア人は血筋では近いのに、ユダヤ人はサマリア人を軽蔑し、憎みさえして、互いに付き合いもしない間柄でした。イエスのたとえにでてくる旅人はユダヤ人だったでしょう。旅の途中で追いはぎに襲われ、傷を負い、すべてを奪われました。それを見ながら、同じユダヤ人の宗教指導者で、神に仕える祭司もレビ人もそこを通り過ぎて行ってしまいました。三人目にやって来たサマリア人は、介抱し、宿に連れて行き、お金を払い、その上「足りなければ、帰りにわたしが払います」と約束するのです。至れり尽くせりの仕方で、日頃相手にされないでいるユダヤ人の一人のために、必要と思われる精一杯のこと、いやそれ以上のことを心を込めてしてあげるのです。たとえの結びにイエスは弟子たちに向かってこう質問なさいました。「この三人の中でだれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」と。もちろん、ユダヤ人とサマリア人の日頃の関わりを知り、いつもユダヤ人に軽蔑されてきたサマリア人です。普通の生活の日々では縁がなく、軽蔑さえされているサマリア人の旅人が「隣人になった」のです。「隣人」というのはただとなりに住んでいる人という意味だけでありません。たとえ日頃は隔たっていても、相手がどうしようもなく困っているときに、自分から「近く」に行き、その人を助けるように「する」、そういう人に「なる」ことにイエスは注目しておられます。人を愛するということは、その人が困っているときに、近くに行きその人を助けることに現れてきます。「そうしよう」、「そうなろう」と思わずにおれない、愛から出る、具体的な助けに注目して、イエスは弟子たちにこのたとえをお話しになったでしょうね。

★分級への展開

○さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□61番 「いつくしみふかき」

□130番（改訂版） 「いつくしみ深い」

○やってみよう

☆よりそうことば

その①

だれかが、「友だちにからかわれていやだった」と言ったとき、なんて言ったらいいでしょうか。

- ①「何か嫌われることを、きみもしなかったかい」
- ②「へいきさ、そんなことどうってことない」
- ③「そんなことでいじけていたら、生きていけないよ」
- ④「そうか、からかわれていやだったんだ」
- ⑤「くやしかったんだね」

☆たとえ話を演じてみよう

- ・今日の聖書に出てきた登場人物を子どもたちに聞く。(レビ人、祭司、サマリア人他)
  - ・どんな立場の人でどんな仕事をしていたでしょうか？レビ人→人々から尊敬され、律法を守る正しい人。ユダヤ人と仲良し。祭司→神さまに仕える仕事をしていた。サマリア人→ユダヤ人と昔から仲良くなかった。
  - ・今日の聖書を読んで、即席劇をしてみよう。
- ※時間があれば、いろんな役を交代して体験してみましよう。
- ・劇をした後、自分が演じた役の人物がどんな気持ちだったかを紙に書いて、発表しましょう。

★今週の聖句

しかし、必要なことはただ一つだけである。

ルカによる福音書 10:42

★ねらい

その時、その場所、その場面でなにをするのかを、きちんと決めなければなりません。「なんとなく」という生き方は信仰を離れても、適切とは思えません。まして、イエスを家に迎えて、イエスを前にしたら、ということを考えさせられます。

★説教作成のヒント

イエスはマルタを叱っているのではありません。「マルタ、マルタ」と心を込めて2度もその名前を呼んでおられることからそれは分かります。「今一番大事なことはなにか」、「今どうしてもしなくてはならないことはなにか」と問い掛けておられるのです。

★豆知識

12人の男の弟子たち以外にも、イエスに従っていたもっと多くの男の弟子たちがいたでしょう。イエスの教えを多くの人に伝えるために72人を送り出したということも書かれています。同じように、女の弟子たちも大勢いたことでしょう。マルタとマリアもそうでしたし、復活の朝イエスの墓に行ったのも女の弟子たちでした。この福音書の箇所は、それらの女の弟子たちの中でもとりわけイエスが心を込めて教えようとされていた二人のことだったでしょう。マルタは駄目、マリアはよし、という単純な見方でこの場面を理解しない方がいいでしょう。

★説教

今この場でなにをしたらよいのか、すぐに分かるときもあります。あれもこれもしなくては、と思って、なにをしたらいいか分からなくなったり、よいことをしているのだけれど、一番すぐにしなければならぬことをしていないということもあるものです。イエスの教えを聞くいろいろな人がおり、それぞれいろいろな場面があったでしょうが、その内の注目すべき一場面が、今日の福音書の舞台です。イエスは親しくしていたマルタとマリアという姉妹の家をお訪ねになりました。マルタはイエスのおもてなしを考えて、一生懸命で、いろいろ考えて働きました。女性らしい態度だと言ってもいいでしょう。まずはおもてなし、それからゆっくりお話を聞こうと思ったに違いありません。妹のマリアはそうではありませんでした。イエスを家にお迎えした最初から、その前に座って、イエスがお話しになることをひとつも聞き逃すまいと思って、熱心に耳を傾けていました。この二人の様子を見て、イエスは「マルタ、マルタ」と二度もその名前をお呼びになりました。マリアだけでなく、マルタにも心を掛けておられたからでした。「マルタ、自分と同じようにマリアを働かせようと思ってはいけませんよ。今なにをするかを考えると、いろいろあるだろうし、あなたはわたしのもてなしを考えて一生懸命なのはよく分かる。それも決して悪いことではなく、いやありがたいことだけど、今この時、なにをするのが一番大事か考えてご覧。マリアはわたしのもてなしのことなど考えずに、ただひとつのことだけ考えたのだ。私があなたたちの家を訪れるということはこれ一度だけかも知れない。そう思ったら、マリアはこの機会を逃さずに私の話しを聞くのが一番大切だと思ったのだろう。この場でしなくてははいけませんよ」と突き詰めれば、ひとつだけなのだ。マリアはそれを選んで、ここに座って、わたしの話しを聞いているのだ。さあ、あなたもここにおいで！ マリアと一緒にわたしの話を聞きなさい」。わたしたちにとってイエスのおことばのひとつひとつはそれほど大切なものなのです。

★分級への展開

○さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□51番「わたしはしゅのこどもです」

□123番（改訂版） 「わたしは主のこどもです」

○やってみよう

☆受け入れられると…

二人ずつ組んで、5分間ずつ、たとえば「頭をなでてほしい」、「膝枕をしたい」などと、おねだりしましょう。自分のあるがままの気持ちを受け入れてもらうことを、実際に経験してみましょう。

☆少年サムエル

・神さまのみことばを聞いた子どものサムエルのお話をしましょう。

※サムエル記3:2-10、アーチブック「少年サムエル」

・お話を聞いた後、サムエルはどんな子どもだったか、話してみましょう。

・教会のどこかにサムエルの絵があれば、みんなで「サムエル探し」しましょう。絵がない場合は、古いカードやネットでサムエルのイラストをコピーして、どこかにひそかに貼ったり、隠したりして「サムエル探し」をしましょう。

・最後にしばらくの間、みんなで手をつなぎ目を閉じて、心を神さまに向けましょう。リーダーは、しばらくの沈黙の後、静かに今日のみことばをゆっくり読みます。再び、沈黙の後、お祈りをしましょう。

○はなしてみよう

その①

・あなたは、マルタとマリアのどちらに共感しますか。

・イエス様のそばにいと信じて、自分の心の奥の声に耳を傾けてみましょう。

・あるがままの自分と向き合ってみましょう。

その②

今日の聖書でイエス様は、私たちはどんなことよりも神様のお話を聞くこと、お祈りすることが大切だと言っています。自分にとって、大切なものはなんですか？考えてみましょう。家族、友達、勉強、ゲーム、テレビ、お金、お祈りの七つを、自分が大切だと思う順番に並べ替えてください。なぜそのように並べたか、お互いに話してみましょう。



★今週の聖句

だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたくものには開かれる。  
ルカによる福音書11:10

★ねらい

祈りの大切さ、祈りでは本当に今自分にとって必要なものを祈ることが大切です。その祈りの中心であり、基本になる祈りを、イエスは弟子の求めに答えて、弟子たちに教えてくださいました。「主の祈り」と呼んで、わたしたちが日ごとに祈っている祈りです。「わたし」の祈りであると同時に、「わたしたち」の祈りでもあることも心に覚えることが大切です。一番分かり易い祈りと言えば、「必要な糧」を考えるといいでしょう。今のわたしたちは毎日食べるものなどは必要なだけ与えられていますが、この祈りでわたしたちは、必要な糧を十分に与えられていない世界中の多くの人のためにも祈っているのです。

★説教作成のヒント

「ひたすら」、「繰り返して」祈る熱心さの大切なこと、自分のためだけでなく、他の人たち、世界中の人たちのために祈る心も必要だということを考えたいものです。

★豆知識

イエスが弟子たちに教えたこの祈りはマタイ6章9以下にも記録されています。これら二つを整えて、教会はその歴史の中で、わたしたちが「主の祈り」と呼んで、日ごとに祈っている祈りとしてきました。自分のためばかりでなく、多くの人、すべての人のためにも祈っているのだという心もち、繰り返して祈りたいものです。

★説教

一人でしばしば熱心に神に祈るイエスを見ていたので、一人の弟子が「自分たちにも祈ることを教えてください」とお願いしました。そこでイエスは短い祈りを教えてくださいました。短いものですが、神が崇められ、敬われて、神の国が来て、みんなが神を敬い、信じるようになること、またわたしたち人間の、毎日の生活に関わる祈りです。これが整えられて、「主の祈り」と呼んで、わたしたちは毎日何回でも祈っているのです。ルーテル教会で長い信仰生活をし、弁護士を長く務めておられた方が「主の祈り」について書かれた文を読んだことがあります。その中で特に「日ごとの糧」について書かれた部分にわたしは注目しました。自分たちは食べるもの、飲むもの、着るもの、住むところなど生活に必要なものは一応十分に与えられているのに、まだこのお祈りをしてよいものだろうかと考えた、というのです。そしてハッと気付かされたと続けておられました。ここにある「わたしたち」は自分たちだけでなく、多くの人たち、いや、地球上のすべての人たちだ、この地上ではまだ食べるものがなく、着る物がなくて苦しんでいる人たちも沢山いるのだ、と。だから、やはり、この祈りも繰り返し、心を込めてしっかり祈らなくてはいけないのだと気付かされた、というのです。この祈りを弟子たちに教えてくださいましたとき、イエスは毎日の生活の中で、人間同士の間でも起こりそうな二つの例をお話しになりました。ひとつは執拗に、繰り返して願うことです。もうひとつは、子供の願いに変なものを与えて応える親はいないということです。そこで強調しなくてはなりません。人間でもそうならば、神はなおさらのこと、そうした願いが本当に必要な願いであれば、必ず応え、祈りをかなえてくださる、ということです。「主の祈り」を一区切りずつ、心を込めて、世界中の人を考えて祈りたいですね。

★分級への展開

○さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□88番 「かみさまのあいは」

□改訂版 40番 「神様の愛は」

○やってみよう

**☆お祈りカードを作ろう**

弟子たちに本当の信仰がない事をイエスさまはご存知でした。礼拝の時や教会の中だけでなく、お祈りは、いつでもどこでも出来るのです。神さまに親しく話しかけるようなお祈りカードを作ってみましょう。  
<用意するもの>

紙(好みの色、大きさで。小さな子どもが書く場合は、大きめの方が良い。)

□「神さま、うれしいことがありました。」「神さま、今悲しいきもちです。」「神さまありがとうございます。」「神さま、こわい事があります。」など、はじめの一言をいくつか用意し、その中から今の気持ちにピッタリなものを選ぶ。

□何を祈ってよいのかわからない時は、イエスさまが教えてくださった主の祈りがあります。結びにみんなで主の祈りを唱えても良いでしょう。